

「玉川学園のCHaTNetと遠隔教育」

～子どもと親と教師のネットワーク～
～携帯電話を利用した新しい形の学習コラボレーション～



清水 英典
玉川大学学術研究所
玉川学園CHaT Netセンター
遠隔教育推進室



幼稚部

マルチメディアルーム



小学部

コンピュータールーム





University		K-12	
Graduate School 大学院	87	Kindergarten Div. 幼稚部	186
Division of Post Baccalaureate 芸術専攻	6	Elementary Div. 小学部	876
University 大学(計)	7,243	Lower Secondary Div. 中学部	861
School of Humanities 文学部	2,263	Upper Secondary Div. 高等部	1,114
Faculty of Agriculture 農学部	1,002		
Faculty of Engineering 工学部	1,505		
School of Business Administration 経営学部	921		
College of Education 教育学部	858		
College of Arts 芸術学部	694		
Department of Education by Correspondence 大学(通信教育部)	10,233		
Tamagawa Gakuen 玉川学園合計		20,606 (2004)	

Students

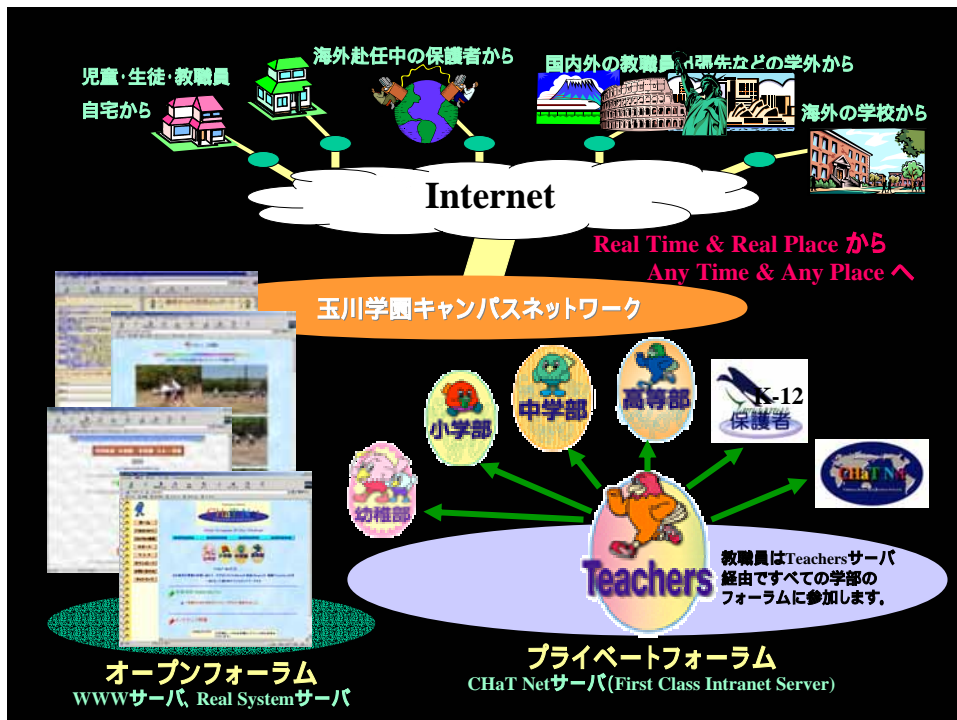


子どもと家庭、学校を結ぶ 教育Network

Children
Homes
and
Teachers **N**etwork



1998年4月にスタート



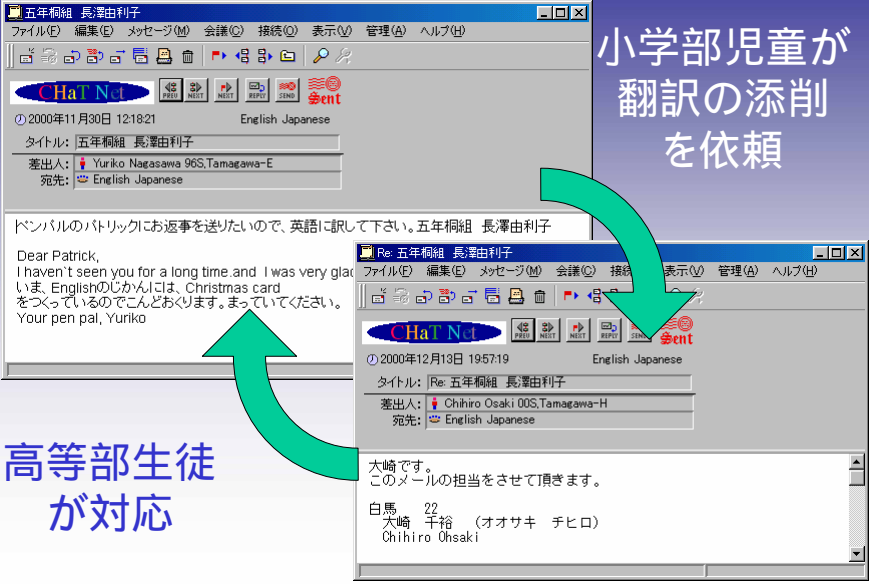
教育活動の公開



遅刻早退欠席連絡等、担任や学校との連絡


各部の枠を越えたコミュニケーション

小学部児童が
翻訳の添削
を依頼



高等部生徒
が対応

英語科の試み



Quick Timeを利用し、
教職員が作成した教材を
Webで動画を配信。
家庭学習を支援する。

小学部算数科の試み



CHaTNet 保護者利用状況 平成16年10月度

	世帯数	ID付与世帯数		利用世帯数	
幼稚部	185	185	100%	182	98%
小学部	772	765	99%	702	91%
中学部	841	830	99%	654	78%
高等部	1082	1034	96%	572	53%
全体	2880			2110	73%

カウントの条件

- ・ 世帯数は、保護者用ID発行のためのデータベースをもとに算出しました。
- ・ 10分以上の利用があった場合に利用者としてカウントしました。
- ・ 夫婦で利用した場合も、1世帯としてカウントしています。
- ・ 複数の学部にあまたいで子どもがいる場合、それぞれの学部でカウントしました。

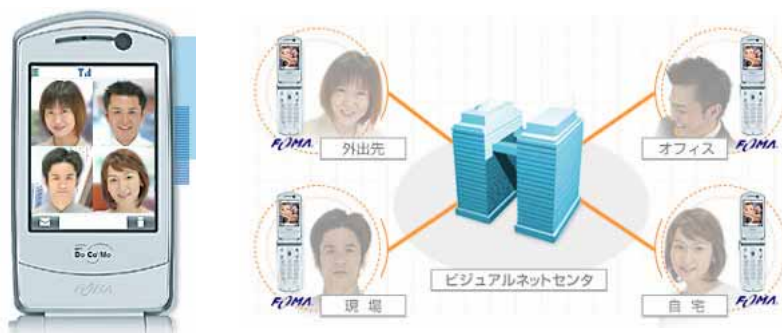
鎌倉とCHaT Netをモバイル接続・・・



学校にもどってまとめ、発表する。



DoCoMo FOMA M-Stage Visual Net



Any Time and Any Placeの新しい試み

DoCoMo FOMA M-Stage Visual Net



子どもはこう変わった

- ・チャットネットメールを使って、学部を超えた交流ができるようになった。(小中高大、父母)
- ・転校や留学した友人と情報の交換をしている。
- ・家庭学習にチャットネットを利用することが多くなった。
- ・コンピュータを利用して学習したり、メールで両親や友人や先生と連絡することが日常的なことになった。
- ・今まで接点がなかった異学部、異学年の児童生徒間での交流ができるようになり、友達が増えた。

保護者はこう変わった

- ・学校の様子がよく分かるようになった。
- ・学校に対して意見が出しやすくなった。
- ・担任への連絡がしやすくなった。(欠席連絡等)
- ・保護者間でメールによる連絡をするようになった。
(携帯電話のメールへ転送処理をする父母が増加)
冷蔵庫の横に貼り物が少なくなった。
- ・ADSLやケーブルテレビ会社の接続利用等が増加し、インターネットへの高速かつ常時接続の家庭が増加した。

教師はこう変わった

- 児童生徒間の関係が良く分かるようになった。
- 授業でのコンピュータ利用が多くなった。
- CHaT Netを見ないと教育活動に支障をきたす。
- 学部間の情報共有が活発化した。
授業教材の共有化を含め、コンテンツをデータベース化する傾向が加速している。
- どこにいても仕事ができるようになってしまった。

今後の課題・展望

- 非同期・同期アプローチ統合による e-Learningの実現
- 各教科・科目の学習と結びついたネットワーク
 - 遠隔教育 / 在宅学習、教材コンテンツ蓄積
- 成績など管理情報を含む教育ポータル完成
- 祖父母へのID発行
- 海外交流提携校との間の環境整備
- 携帯端末の活用



<http://www.tamagawa.jp>